奥州の未来に期待

僕の夢、わたしの願い、みんなの思い

村上瑛（あきら）くん（9）【胆沢区】　高橋鈴花（りんか）さん（9）【胆沢区】

僕たち、わたしたちの周りには、きれいな山や川・草花がたくさんあります。そしてそこに住む昆虫などの生き物もたくさんいます。未来の奥州市もずっとこの豊かな自然を残してほしいです。

岩渕高紀（たかのり）さん（31）【水沢区】

自分よりもっと若い人から「夢を持っている」という声を聞かなくなりました。夢を持ち続けることが、実現への第一歩。市には次世代を担う若者が羽ばたけるような環境づくりを進めてほしいです。自分もＦＭを通して少しでも貢献できたらと思っています。

藤原美緒さん（17）【江刺区】

生まれ育ったこの土地で働きたいと思っても、なかなか仕事先がないのが現実です。働く場所があれば若者たちの市外への流出も防げると思うので、ぜひ、企業誘致などによる雇用の場の確保をお願いします。

千田信男さん（49）【前沢区】

奥州市の未来を担う子どもたち。少子化により学校統合などの話がありますが、わたしたちのまちを背負って立つ子どもたちのために教育環境の充実や子どもたちが安心安全に暮らせるまちづくりを望みます。

佐々木ミネ子さん（73）【衣川区】

衣川は奥州市の南端。市が発展していくことは喜ばしいことですが、中心部だけの行政ではなく、衣川を含めた市の周辺地域にももっと目を向け、決め細かなサービスをお願いします。

■取材を終えて…

平成18年２月20日。水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村が合併し、奥州市が誕生しました。時の流れは早いもので、あと２カ月あまりで合併から３年が経とうとしています。

今回の特集のテーマは「合併」。旧水沢市議会で合併調査特別委員長を務めた高橋照治さんが言うように、全国的に巻き起こった「平成の大合併」は、社会情勢の変化がもたらした国の財政危機から来る市町村の財政難に起因するものであることは、誰も否定できないことだと思います。そのため合併をすればすべてが良くなり、すべての問題が解決し、生活が楽になるというものではないことは、お分かりいただけると思います。合併しなかった場合、住民サービスの低下や住民負担の著しい増加が懸念されるため、それを少しでも食い止めようと行われたものと言ってよいのではないでしょうか。そのような中でも本市は、合併の成果として効果（４～５㌫）を上げ、サービスを展開しています。特にも子育て支援や福祉分野などでは市民のニーズに応えるため、他市町村にはない独自性を発揮しています。また学校建設などは合併の効果がもたらした事業といえます。そのほか、６月に起きた岩手・宮城内陸地震で、衣川区は水源が断たれ、区民は不自由な暮らしを余儀なくされました。しかしこのときも、胆沢区からの緊急時連絡管を通じて水を確保できたことは合併の効果といえると思います。

今回、取材を通してさまざまな年代の人たちにお話を伺うことができました。しかしまちの声は、必ずしも「合併バンザイ」と手放しで喜んでいるわけではなかったように思います。大なり小なりまちづくりに対して不安や要望を持っていました。市は、これらの不安や要望をこれからのまちづくりに反映させていかなければいけません。合併は手段であって目的ではありません。ゴールでもなく新しいまちづくりのスタートなのです。合併をして政策基盤・財政基盤を確立しても、奥州市に住むわたしたちが地域づくりに知恵を出し合い、額に汗をし、努力をしなければまちは良くなっていかないのです。また５自治区がばらばらであってもいけません。自分の区さえ良ければいいというのではなく、もっと視野を広げ５自治区は１つという気持ちを持つことも大切です。

合併によりわたしたちのまちは岩手の「副県都」に成長しました。しかし奥州市は誕生してまだ２年10カ月。人間で言えばまだまだ子どもです。小さい子どもは何かと手が掛かります。ですから皆さんも奥州市に手を掛け、まちづくりに参画し、生まれたばかりの“ふるさと奥州市”をみんなで育て上げていきましょう。みんなで手を掛けた奥州市は、必ずその期待に応え、いいまちに育ってくれるはずなのですから。